

「自ら学びに向かう児童の育成」を実現するためには？

本時の
つながり



本時 (4/7)

ねらい：友達と対話をしながら、大事なことを落とさずに聞いて、友達を紹介するために必要な事柄を集めることができる。

	学習内容・学習活動	留意点/教材・教具
導入	<p>1. 前時の活動を振り返り、本時の学習課題を確認する。</p> <p>ともだちの好きなこと・ものについて、しつもんをしながらくわしくきいて、しょうかいしたいことをあつめよう。</p> <p>2. 本時の学習の流れや方法を知る。 ①4人1組(2人×2ペア)になる。Aペアが話し手と聞き手に分かれて対話する。Bペアもそれぞれ分かれて、「応援隊」として、対話に助言をする。 ②Aペアの話し手が、映像を見せながら話す。 ③聞き手は、友達の話に質問・感想を返す。 ④聞き手は、紹介したい内容を付箋に短くメモをする。</p>	<p>○掲示されている学習計画表を見ることで、本時のめあてを意識できるようにする。</p> <p>○学習の流れや方法を掲示し、見通しがもてるようにする。</p> <p>○話し方・聞き方のポイントを確認する。 ○付箋へのメモの仕方を確認する。</p>
展開	<p><前半></p> <p>3. Aペアで今日の話し手と聞き手に分かれて、3分間好きなことやものについて対話をする。聞き手は、更に聞いてみたいことを質問し、話し手に答えてもらう。</p> <p>4. Bペアは、Aペアの対話のお助け係「応援隊」をし、話し方・聞き方を見守り、助言をする。</p> <p>5. 対話を終えたところで、Aペアの聞き手は2分で付箋にメモする。</p> <p>6. 前半の活動について「応援隊」からよい対話について聞き、後半に活動する際の留意点について知る。</p> <p><後半></p> <p>7. 役割を交代して、Bペアが対話をし、Aペアが「応援隊」をする。</p> <p><スペシャルタイム></p> <p>8. 前時に対話したペアだけで、再度対話をして、付箋のメモを増やす。</p>	<p>○タブレットで撮影した映像を見せながら対話をする。</p> <p>○5W1Hなどの質問事項話型を集めた「おはなしカード・しつもんポケット」を用意し、話に合った質問をするための一助とする。 ○「応援隊」は、対話に行き詰って助けを求められたときに助言するように促す。 ○話を聞いて分かったことはクリーム色の付箋に書く。話を聞きながら、質問して聞き出したことはピンク色の付箋に書く。話し手に確認しながら書いてよいことを伝える。</p> <p>○スペシャルタイムは、時間がある場合に行う。このときは、応援隊なしで対話を行う。</p>
	<p>9. 本時の学習を振り返りを書き、次時の見通しをもつ。</p>	<p>○対話によって、より友達の紹介したいことが広がったことに気付かせる。 ○話し方・聞き方の観点に沿った自己評価ができるように助言する。</p>

単元を貫く授業デザイン/学習環境デザイン

「学びに向かう力」学びの土台づくり

本単元では、児童がやってみたいと思うような導入をし、教師と共に学習課題を設定する。そして、ゴールを目指して学習計画を立てて見通しがもてるようにする。自ら主体的に取り組もうとする道筋をつくる。1年生には初めての試みであるが、挑戦していく。また、1時間ごとに振り返りをし、めあてに対する評価をしながら、力が付いてきていることを実感させていく。経験することで、次回から課題解決型の学習ができるようになっていくと思われる。本時では、付箋を色別し、質問して聞き取った内容が分かるようにして評価もする。

学びの
土台づくり

言語活動を通しての人間関係づくり

学級には、英語を主に話す外国籍の児童、特別支援を要する児童など、様々な児童が35名いる。その中で助け合って、いっしょに進んでいこうとしている。本単元では、学校では知り得なかった友達の新たな一面を見付けて、学級全体に知らせる言語活動を行う。新たな一面に感動し、知らせたいの思いを強く持ち続けることができる内容である。

活動を通して、より友達への理解が深まり、人間関係が広がることを期待している。

人間関係の
構築

協働学習の基礎となる話す・聞く

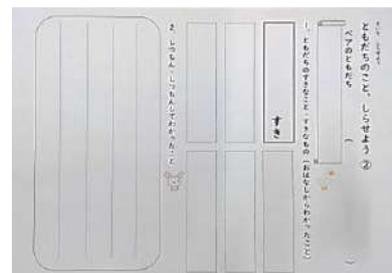
自分の考えをもつことに加えて、友達の話を聞き、新しい考えに触れて、自分の考えを広げることが大切な協働学習である。そして、話し合いは考えの共有でもある。低学年から話し合いの練習をし、基礎を身に付けなければならない。低学年は、話し合いの一步として、一対一の対話を身に付ける時期であるが、個々の力量によっては大変難しいものがある。そこで、サポートする「応援隊」を設定した。支援してもらいながら、自分で話したり、聞いたりする活動を活性化する。役割が明確になるようにプレートも用意した。また、「おはなしカード・しつもんポケット」を用意して、対話のための一助とした。

協働学習の基礎
話す・聞く

学びを補助する
ICT活用

映像を手掛かりとして話し合う

単元の導入では、教師によるモデル対話を見せた。対話で映像など具体的な資料提示が取材をする際には効果的であることが分かった。そこで取材活動や発表資料にICTを用いることにした。自分の好きなことやもの、友達に知ってもらいたいことを自分でいっつか考えた上で、タブレットを持ち帰り、映像を撮影してきた。映像からは普段見ることができない学校外での友達の一面を見ることが出来る。また、聞き手は、話し手が説明が足りなかった点について、映像を手掛かりとして質問をしながら詳しく聞き、全体に知らせたい内容を選択する。



授業観察の視点

- Q:授業の中で、どのようなつながりが生まれていたか?
- Q:タブレットの活用は、<ちょうどよい>ものだったか?

本時に向けて参考にした文献
文部科学省2018「小学校学習指導要領解説 国語編」
光村図書小学校国語学習指導書「こくご 一下 ともだち」

現在に至るまでの授業実践・研究

フィードバックシート

学校名

記入者名

授業者へのメッセージ/フィードバック

「応援隊」が言語のちがいをもち橋渡しをしていました。グループの構成もよく考えられていることが分かりました。写真を見せることで、言葉が理解できない場合でも理解の助けになっていました。首からかけたプレートが、子ども自身の役割を見失わない。子ども同士にとっても分かりやすい。授業者にとっても指導・支援しやすい。そして、参観者にとっても分かりやすい。そんな手立てでした。

一人で「話すこと」「質問すること」「書くこと」が苦手な児童に対しても、互いに助け合える仕掛けや工夫がありました。「友達とのつながり」が個々の学びにつながっていました。

数字のタイマーだとカウントダウンしたくなる。(小学生あるある)円グラフタイマー(?)などで残りの目安だけ伝えて、アラーム音なしにするのもよいと思います。。
子供の実態に応じて伸ばしたり縮めたりするため、あえてアバウトにするとよいとです。

写真や動画を相手に見せることは、語彙の少ない低学年にとって「ちょうどよい」活用でした。特に「楽器の演奏」「スポーツをプレイしている場面」「家族」などは、実際に見せることが難しいため、効果的でした。

自分の授業に活かしたいこと/この授業をもとにした展望